

ますたに呼吸器クリニック

基本に忠実な診療で“働き盛り”を支えるクリニック



▲ 前列中央が舩谷仁丸先生

広大な大阪城公園に隣接する「ますたに呼吸器クリニック」には、大阪市中心部に勤めるビジネスマンをはじめ、1500名に上る睡眠時無呼吸症候群(SAS)の患者さんが通院している。2001年10月の開設以来、日本睡眠学会の指針や、SAS診療の研修を受けた大阪回生病院の検査手順を守り、基本に忠実な治療を続けている院長の舩谷仁丸先生は、「睡眠状態を測定する終夜睡眠ポリグラフ(PSG)検査はコンピューターによる自動解析も可能ですが、覚醒状態を睡眠中と誤認したり、2回の無呼吸を1回と判定したりするミスがあるので、必ず検査技師によるマニュアル解析を実施しています。CPAP機器の送風圧も自動設定ではなく、技師が患者さんの状態をPSGでモニタリングしながら遠隔操作で調節しています。当然、マニュアル操作のほうが技師の負担は大きいのですが、一人ひとりの患者さんに適した微調整ができますし、治療開始時の状態を測定しておけば、症状が変化した時や治療法を変更する時などの判断基準にもなるのです」と語る。

治療開始後の配慮も行き届き、「CPAP導入後1週間以内に、電子メールか電話を通じて患者さんの状態を確認し、何か問題があれば早めに解決できるように留意しています」との

こと。定期的に個人やグループ制の生活習慣改善指導を行ったり、症状の安定した患者さんには、より通院しやすい内科や耳鼻科を紹介したりするなどのケアも行っている。

呼吸器科が専門の舩谷先生は企業病院の勤務時代からSAS治療に携わっていたが、あまりに多忙で患者さんの細やかなフォローまではとても手が回らなかったそうだ。「外来では慢性呼吸不全や肺がんの患者さんを診察し、病棟では人工呼吸器の管理をしながら、CPAP機器の調整や泊り込みのPSG検査にまで対応するというのはやはり無理がありました。しかし企業で無呼吸のスクリーニングを実施すると重症のSAS患者さんが次々と発見される状況でしたので、何とかそれに対応できる方法がないかと探していたのです」(舩谷先生)。そして、ちょうどその頃、各地で軌道に乗り始めていた病院併設の睡眠センターやオフィスビルで診療を行う睡眠クリニックの存在が1つの契機となって、先生自身でクリニックを開設するに至ったそうだ。もちろん現在ではSAS以外の睡眠障害についても初診予約の電話段階から見逃さないように注意し、近隣の専門医とも連絡し合って診療にあたっている。

今後、舩谷先生は、自らも経験のある産業医との連携を強めて睡眠障害をスクリーニングする効果的な仕組みを整えると共に、高血圧や糖尿病、心不全などの病気のかげにあるSASの実態を把握するため内科医との協力を深めたいと考えている。患者さんへの貢献を第一に、基本を大切にして診療の質を重視する姿勢が強く印象に残った。



▲ 大阪城を間近に望む検査病床



▲ PSGのモニタールーム